

南アフリカの柑橘類事情(オレンジ、グレープフルーツ、ソフト柑橘類)

米国農務省GAINレポート 2023年12月19日

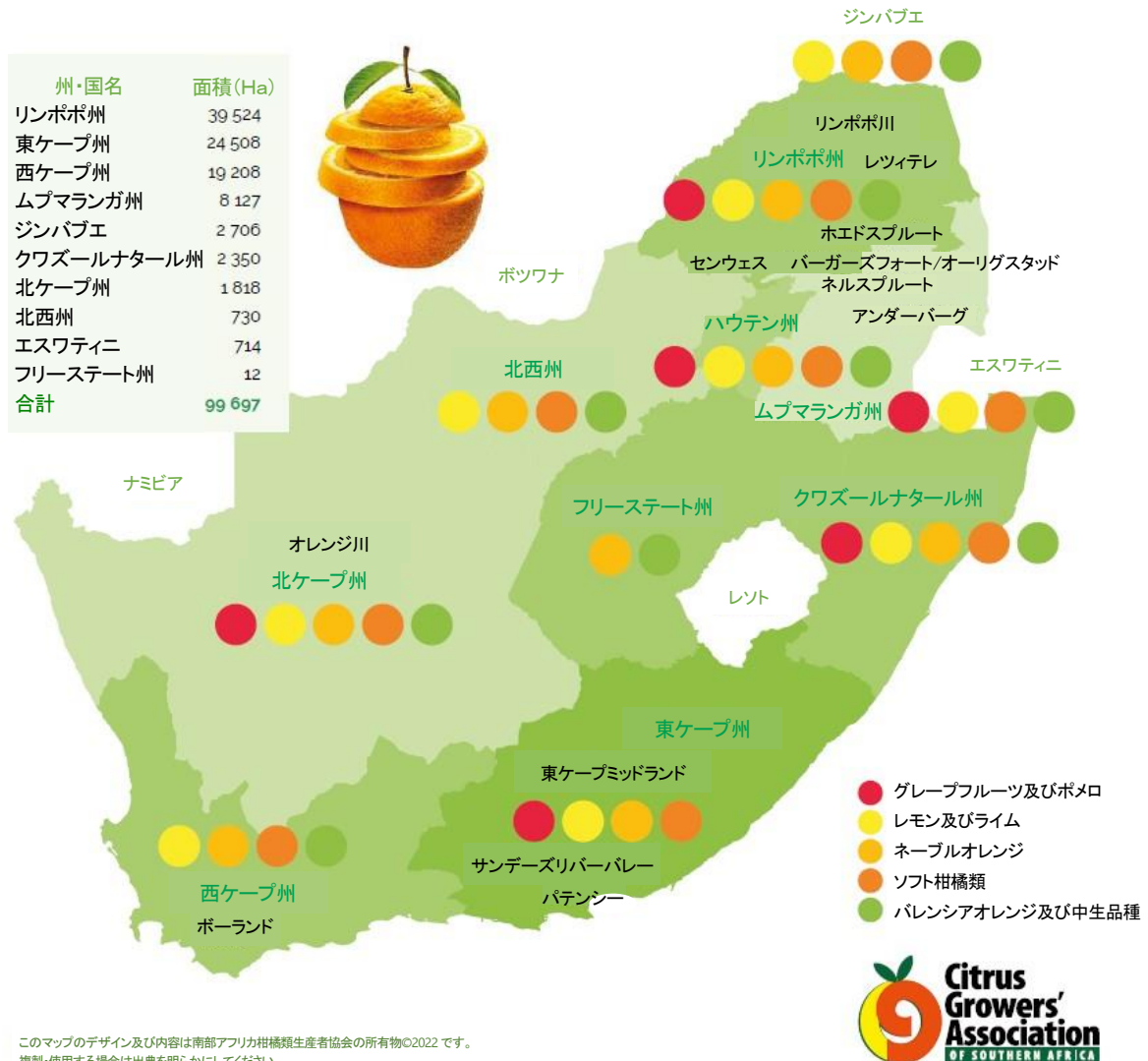
これは米国農務省海外農業局のプレトリア事務所(南アフリカ)が作成した「柑橘類年次報告書」の一部を訳したものであり、米
国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要旨

十分な灌漑水と生産者による資材投入の増加により、南アフリカの2023/24年度のレモン生産量は10%、
タンジェリン/マンダリンの生産量は4%増加すると予測される。その他の柑橘類については、生産者がそれ
らの柑橘類の見通しに関して楽観的ではなく、古い果樹を改植しないため栽培面積が減少し、生産量はグ
レープフルーツで5%、オレンジで1%とわずかに減少すると予想される。オレンジ果汁の製造量は、オレンジ
の輸出市場への出荷が増加したため、3%減少すると予測される。輸出市場の需要が高まると見込まれるが、
柑橘類産業は、引き続き輸出の妨げとなる非効率な港湾運営、輸送インフラの老朽化、病虫害の懸念という
課題に直面している。米国はプレミアム市場と見なされており、アフリカ成長機会法(AGOA)に基づく米国
への柑橘類の免税輸出は、力強い年間成長率が続く予想される。

背景

図1 南アフリカの柑橘類産地



出典: 南部アフリカ柑橘類生産者協会(CGA)

訳注: マップ中の黒字はCGAの地域組織区分です。同協会にはジンバブエ、エスワティニ及びボツワナ(2022年から)の生産者を含みます。

南アフリカの柑橘類の総栽培面積は、2020/21年度の9万7,550ヘクタールから2021/22年度には9万6,277ヘクタールへと1%減少した。この減少は、物流上の課題、投入資材コストの上昇、不安定な電力供給、及び特にEU市場における植物検疫要件など、業界が直面しているいくつかの課題によるものである。

南アフリカの柑橘類は、主にリンポポ州、東ケープ州、西ケープ州及びムプマランガ州で生産されている(図1参照)。西ケープ州と東ケープ州は比較的冷涼な気候で、ネーブルオレンジ、レモン及びクレメンタインやウンシュウミカンなどのソフト柑橘類の生産に適している。ムプマランガ州、リンポポ州及びクワズールナタール州は温暖な気候で、グレープフルーツやバレンシアオレンジの栽培に適している。

図2 地域別柑橘類生産シェア

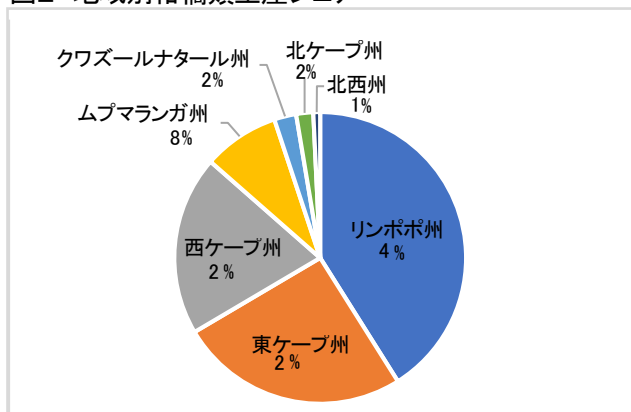
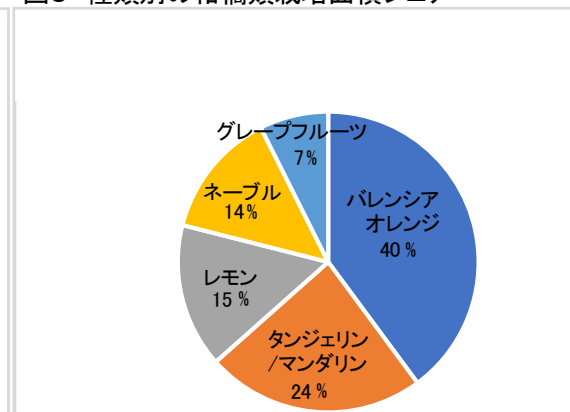


図3 種類別の柑橘類栽培面積シェア



出典: CGA

図3は、オレンジ(バレンシア種)が南アフリカで最も多く生産される柑橘類であり、2021/22年度の柑橘類の総栽培面積の40%を占めていることを示している。一方、タンジェリン/マンダリンは、柑橘類の総生産量に占める割合が最も大きく増加しており、2015/16年度の約16%から2020/21年度には24%となった。

南アフリカでは、少なくとも210種類の商業的な柑橘類品種が栽培されている。表1は、南アフリカで栽培されている最も一般的な柑橘類の品種を示している。スタールビーは、世界的に需要が高いため、最も多く植えられているグレープフルーツ品種である。バレンシア種はネーブル種よりも収量が多く、貯蔵性が高いため、生産者はネーブル種よりもバレンシア種を好む。ナドルコットは、南アフリカで最も人気のあるソフト柑橘類品種の1つである。カリフォルニア大学リバーサイド校の柑橘類育種プログラムによって開発されたタンゴ品種は、2016年に南アフリカでの育成者権(に基づく利用権)が認められ、ナドルコット品種との競争が生じるものと見られる。

表1 柑橘類の品種

柑橘類の種類	品 種 名
グレープフルーツ	スタールビー、マーシュ、ジャクソン、ポメリット、ローズ、レッドハート
オレンジ	バレンシア種/中生品種: ミッドナイト、バレンシアレイト、デルタ、ターキー、ベニー、デュロワ、グソコラ、ジャシー
	ネーブル種: カンプリア、パーマー、バイアニーニャ、ワシントン、ウイト克蘭、カラカラ、ナベリーナ、ロビン、レーンレイト、オータムゴールド、ニューホール
マンダリン/ タンジェリン	ウンシュウミカン: 三保早生、クイーン、尾張、ベラベラ、宮川早生
	クレメンタイン: ミュール、アンデス-1、オクトゥブリーナ、エスバル、マリソル
	マンダリン: ナドルコット、ナドルコットLS、タンゴ、ノヴァ、リーナリ、オツリ、ラム、モル、バレーゴールド、タンパー、シーガル
レモン/ライム	ユーレカ、リスボン、2Phシードレス、リモネイラ8A、ジェノヴァ、ユーレカシードレス、レモネリア

出典: CGA

表2 南アフリカの柑橘類の収穫期

柑橘類の種類	収穫期
マーシュグレープフルーツ	3月～6月
スタールビーグレープフルーツ	4月～9月
ネーブルオレンジ	3月～7月
バレンシアオレンジ	7月～9月
マンダリン/タンジェリン	3月～8月
レモン/ライム	2月～9月

出典: CGA

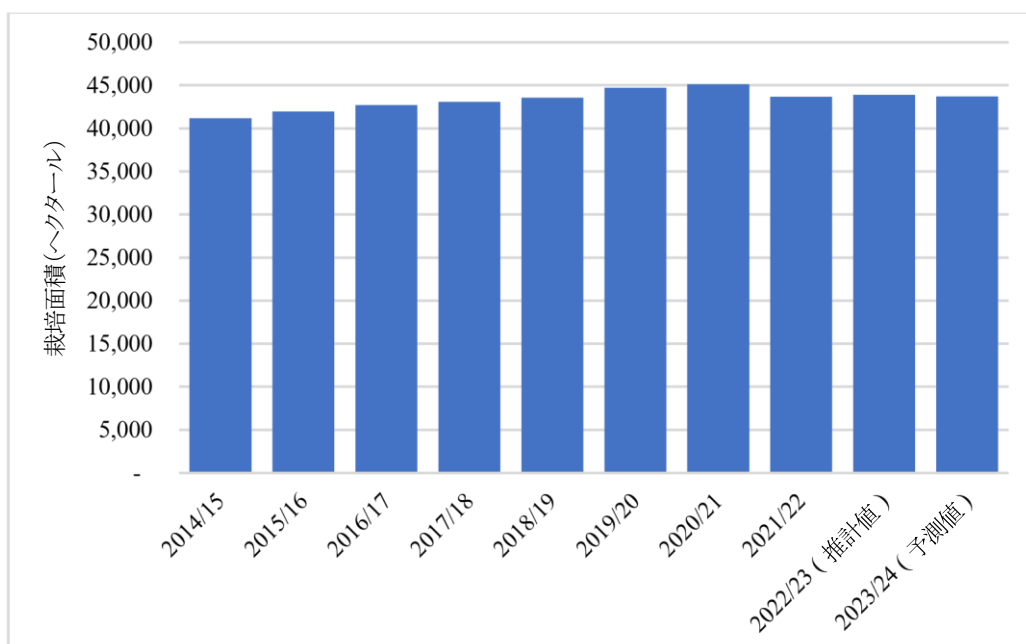
<オレンジ>

栽培面積

2023/24年度のオレンジ栽培面積は、0.5%減少するものと予測される。図4はオレンジの栽培面積の推移を示しており、2020/21年度がピークとなっている。西ケープ州とリンポポ州の産地におけるソフト柑橘類への積極的な転換によって、オレンジの栽培面積の伸びは抑制されている。新植面積が限られており、老朽化した果樹園を置き換えるには不十分なようである。

当事務所への情報提供者らによると、生産者は輸出市場へのアクセス、特にEUの植物検疫要件に関する懸念から、面積の拡大を抑制している。非効率な港湾運営、不安定な電力供給、道路網の老朽化及び投入資材コストの上昇により、オレンジ生産者の収益性が低下し、業界の継続的な投資が抑制されている。2022/23年度の栽培面積は、新植が老木(の除去)をわずかに上回るため、0.5%増加すると推定される。

図4 南アフリカのオレンジ栽培面積



出典: CGA (推計値/予測値は当事務所)

リンポポ州は南アフリカの総栽培面積の50%を占める主要なオレンジ産地であり、東ケープ州(24%)と西ケープ州(15%)がそれに続く。バレンシア種がオレンジ栽培総面積の3分の2を占め、ネーブル種は残りの3分の1を占めている。最も多く栽培されている品種はミッドナイトで総面積の26%を占め、バレンシアレート(10%)、デルタ(9%)、ベニー(7%)及びターキー(7%)の各品種が続く。南アフリカで栽培されるその他の栽培品種は、パーマー、カンブリア、バイアニーニャ、ワシントン等である。

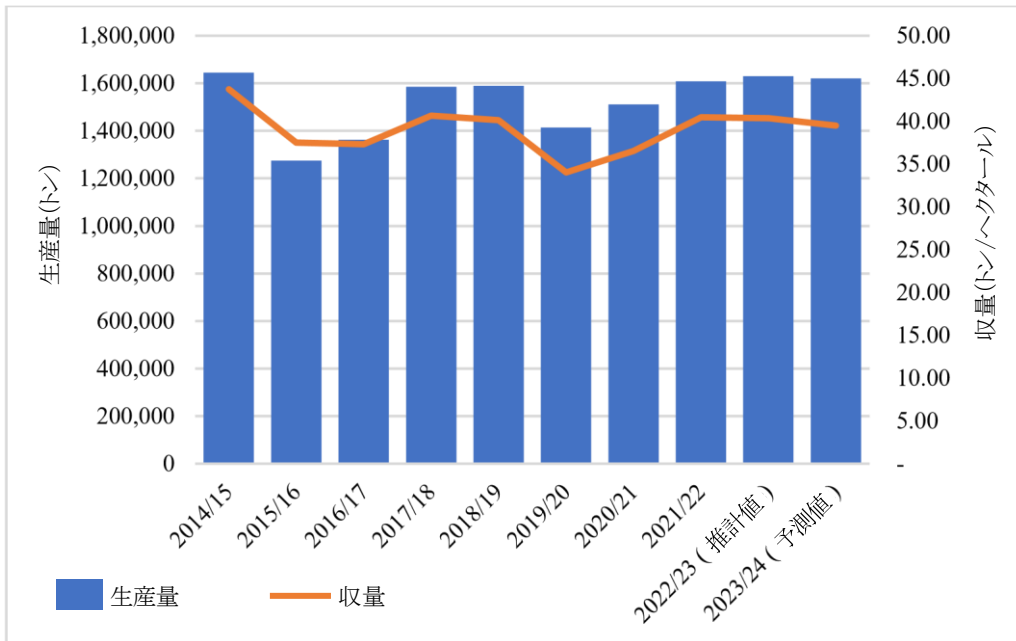
生産

当事務所は、南アフリカの2023/24年度のオレンジ栽培面積の1%の減少に基づき、生産量も1%減少すると予測する。全体として、オレンジ産地では灌漑に十分な雨が降っており、これは過去2シーズンに達成した比較的高い収量を維持するのに役立つと予想される。気象条件は全般的に良好だが、西ケープ州は2023年6月に大雨と洪水に見舞われ、一部のオレンジ果樹園と農場インフラが被害を受けた。この地域の小規模生産者は十分な保険に加入しておらず、灌漑システムや防電ネットなどの農場インフラを修復できなかったため、そうした生産者の2023/24年度の収穫量は制限されると予想される。

2022/23年度は、主要なオレンジ産地で十分な降雨量が得られ、生産がピークとなる樹齢にあるオレンジの樹が多いため、オレンジ生産量は1%増加すると推定される。西ケープ州の出荷の最盛期に大雨が降ったが、全体的な生産量の増加に対する影響はわずかであった。業界筋の報告によると、その時点で今シーズンの果実の大部分がすでに収穫されていたため、雨は主にネーブル種の品質に影響を与えた。

2021/22年度の生産量は前年比6%増となった。この生産量の増加は、主要な産地でシーズンを通して平均以上の降雨量があり、十分な灌漑用水が確保され、生産にプラスの影響を与える生育条件となったことによるものである。図5に、2014/15年度以降の南アフリカのオレンジ生産量を示す。

図5 南アフリカのオレンジ生産量



出典：農業農地改革農村開発省 (DALRRD) (推計値/予測値は当事務所)

輸出

当事務所は、2023/24年度の南アフリカのオレンジ輸出量が2%増加すると予測する。輸出可能な果実の増加と輸送コストの低下は、より力強い成長の可能性を示しているが、業界筋は、ダーバン港とケープタウン港の状態は昨年よりも悪く、この後のシーズンの脅威になると主張している。ケープタウン港は多くの輸出産業に問題をもたらしており、世界銀行の2022年コンテナターミナルパフォーマンス指数では347地点中344位にランクされ、ダーバン港は341位にランクされている。特にケープタウン港では、船への貨物の積み下ろしに使われるガントリーが故障し、滞貨が深刻化している。業界は、港湾インフラの故障により発生する可能性のある遅延や食品の劣化の問題を解決するために、港湾当局との協議を続けている。

2022/23年度には、輸出可能な果実の増加と南アフリカ通貨の安値による輸出条件の改善により、輸出は3%増加したと推定される。なお、西ケープ州からの輸出は、洪水時の道路インフラの損傷により遅延した。

南アフリカは世界の100か国以上にオレンジを輸出しているが、EUは依然として南アフリカのオレンジ輸

出シエアの約31%を占める最大の輸出先である。2021/22年度のEU向け輸出は、消費者の購買力に影響を与えるEUのインフレ率の上昇を反映して11%減少した。さらに、柑橘類の輸出に免税アクセスを認めるEUとの自由貿易協定にもかかわらず、南アフリカはカンキツ黒星病(CBS)とフォールスコドリグモス(FCM)の蔓延により、引き続きEU市場での植物検疫の課題に直面している。

2022年7月以降、EUは柑橘類の輸入において、FCMに対する植物保護を確実にするために、輸入前に一定期間の特定の低温処理と予冷を行うことを義務付けている。南アフリカは2022年7月に世界貿易機関(WTO)において、新たな規則で規定された低温処理についてEUとの協議プロセスを開始した。現在までのところ、協議は終了していない。しかし、EU市場への輸出量は依然として多い。

表3 南アフリカの生鮮オレンジ輸出量

輸出先国	2020/21 (トン)	2021/22 (トン)	増減率	2021/22	2022/23	増減率
				1月~9月 (トン)	(トン)	
オランダ	283,466	264,586	-7%	240,684	257,174	7%
アラブ首長国連邦	105,057	110,113	5%	86,670	121,588	40%
中国	72,744	96,892	33%	95,456	82,155	-14%
ロシア	86,289	85,153	-1%	67,135	87,005	30%
英国	68,670	73,686	7%	62,293	48,534	-22%
サウジアラビア	74,370	66,208	-11%	55,993	40,868	
バングラデシュ	61,624	59,977	-3%	53,495	25,692	-52%
ポルトガル	71,154	59,261	-17%	57,970	63,489	10%
米国	47,501	59,192	25%	53,284	53,576	1%
マレーシア	41,380	49,160	19%	43,336	33,499	-23%
香港	46,506	47,692	3%	44,405	46,265	4%
カナダ	40,404	42,630	6%	36,647	41,691	14%
イラク	41,810	41,475	-1%	35,054	19,209	-45%
イタリア	42,747	34,538	-19%	34,286	38,598	13%
インド	21,093	28,173	34%	27,311	24,654	-10%
カタール	11,341	15,542	37%	11,387	7,651	-33%
シンガポール	10,174	12,894	27%	11,229	8,977	-20%
クウェート	17,218	10,689	-38%	8,196	7,655	-7%
フランス	5,512	10,091	83%	9,030	13,778	53%
その他	146,677	130,775	-11%	107,216	107,388	0%
合計	1,295,737	1,298,727	0%	1,141,077	1,129,446	-1%

出典: Trade Data Monitor LLC

中国は2021/22年度に約33%の成長を遂げ、現在、南アフリカの第3位のオレンジ市場である。2021年に開始されたモザンビークのマプト港からの柑橘類の輸出は、中国への輸送時間とコストを削減する画期的なものである。マプト港は、南アフリカ産柑橘類がアジアや中東の市場へ向かう玄関口となっている。南アフリカのオレンジのかなりの量は国の北東部で生産されており、そこはダーバン港よりもマプト港にかなり近い。ダーバン港での多くの問題と滞貨を考えると、2023/24年度には、南アフリカ産のオレンジがマプト港経由で輸出される割合がさらに高くなると予想される。

南アフリカの対米輸出は、米国の生産量の減少予測に基づき、引き続き増加すると予想される。アフリカ成長機会法(AGOA)に基づく免税措置の恩恵を受け、2021/22年度の米国へのオレンジ輸出量は、2020/21年度の4万7,501トンから25%増加し、過去最高の5万9,192トンを記録した。2022/23年度は、1月から9月までの南アフリカ産オレンジの米国向け輸出量がさらに多いため、新記録が見込まれている。南アフリカは、米国の夏の時期に、主にミッドナイト品種のオレンジを米国に輸出している。米国向けのオレンジ輸出シーズンは10月に終了した。

表5 南アフリカのオレンジの生産需給統計

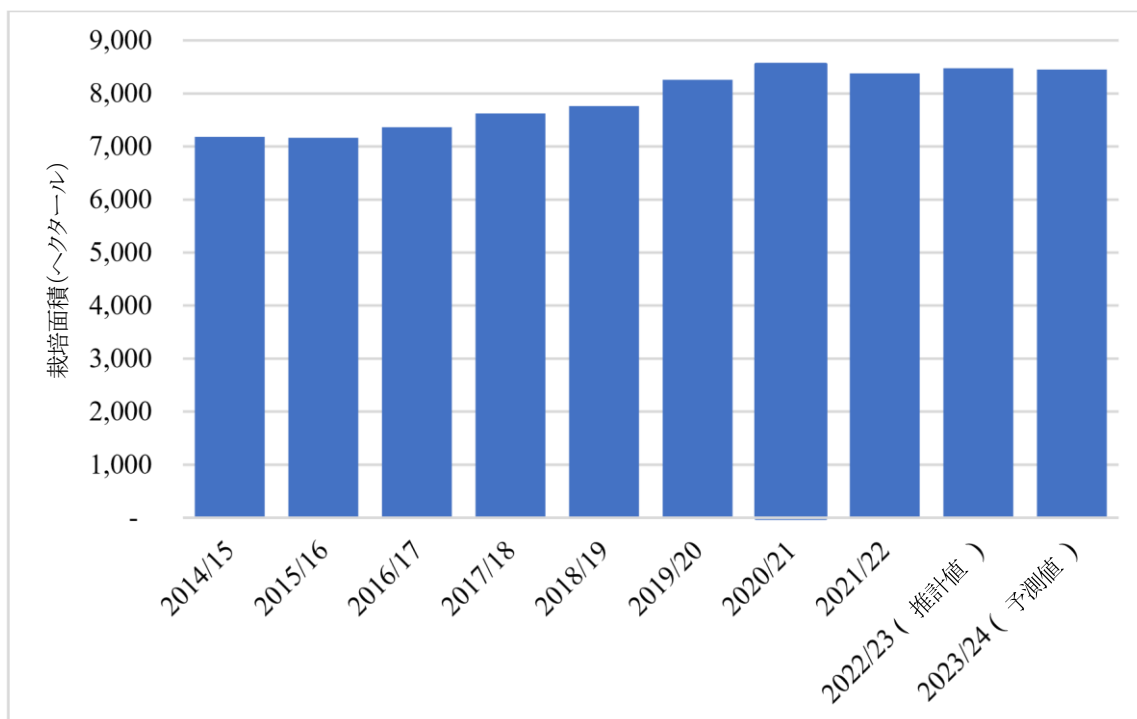
オレンジ(生鮮) 販売年度の始まり 南アフリカ	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2022年2月		2023年2月		2024年2月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	43,668	43,668	43,900	43,900	0	43,700
収穫面積(ヘクタール)	39,738	39,738	40,388	40,250	0	40,000
結果樹本数(千本)	42,130	42,130	42,500	42,500	0	42,150
未結果樹本数(千本)	4,495	4,495	4,000	4,000	0	4,100
合計果樹本数(千本)	46,625	46,625	46,500	46,500	0	46,250
生産量(千トン)	1,609	1,609	1,630	1,630	0	1,620
輸入量(千トン)	5	5	3	3	0	3
総供給量(千トン)	1,614	1,614	1,633	1,633	0	1,623
輸出量(千トン)	1,299	1,299	1,363	1,338	0	1,370
生鮮国内消費量(千トン)	135	100	115	130	0	93
加工仕向量(千トン)	180	215	155	165	0	160
総仕向量(千トン)	1,614	1,614	1,633	1,633	0	1,623

<グレープフルーツ>

栽培面積

当事務所は、新植と古い果樹園の伐根が最小限であることから、2023/24年度のグレープフルーツの栽培面積を横ばいの8,450ヘクタールと予測する。生産者がソフト柑橘類の品種に移行していることが観察されており、グレープフルーツの苗木の販売は減少傾向にある。南アフリカのグレープフルーツ栽培面積は、2011/12年度の約9,900ヘクタールがピークであった。その成長は、ヨーロッパ、アジア、中東をはじめとする世界的な需要の増加によるものであった。しかし、2012/13年度以降、世界的な需要の軟化により、成長率は年平均1%に低下しており、今後数年で横ばいになると予想される。さらに、農業投入資材コストと輸送運賃の上昇により、グレープフルーツ生産者の収益性が低下し、業界の継続的な投資が抑制されている。

図6 南アフリカのグレープフルーツ栽培面積



出典: CGA (推計値/予測値は当事務所)

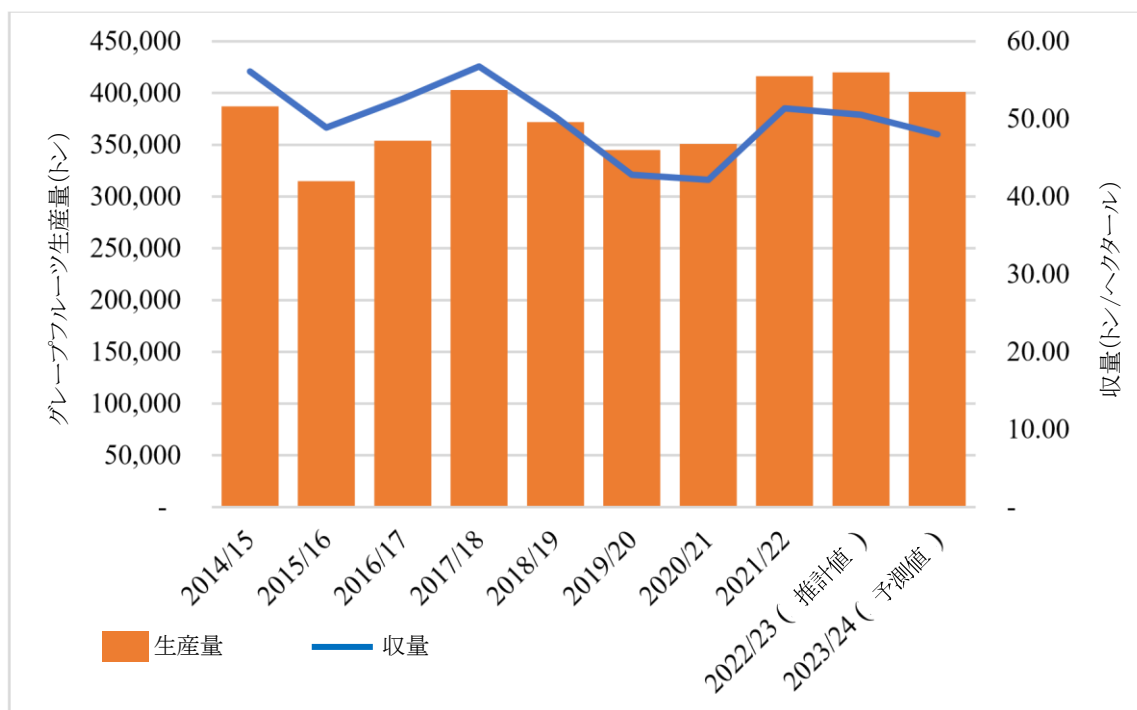
リンポポ州は南アフリカのグレープフルーツの主要産地であり、総栽培面積の56%を占め、ムプマランガ州(20%)、クワズールナタール州(10%)、北ケープ州(6%)がそれに続く。スタールビーが、その世界的な需要の高さにより総面積の88%を占める主要な栽培品種となっている。南アフリカで栽培されるその他のグレープフルーツ品種は、マーシュ、Fe1(ジャクソン)、ポメリット、ローズ、レッドハート等である。

生産

当事務所は、2023/24年度のグレープフルーツ生産量は、収量が平均的で収穫面積が微増に留まることから、5%減少すると予測する。リンポポ州の主要産地に水を供給しているダム現在の水位は昨シーズンと同程度であり、灌漑に必要な水が十分確保されている。

2022/23年度のグレープフルーツ生産量は、主要な産地で平年を上回る降雨量が記録されたため、1%の微増と推計される。2021/22年度には南アフリカのグレープフルーツ生産量は19%増加した。2021/22年度の夏の降雨シーズンはほとんどの産地で通常どおり始まり、シーズンを通して広範囲に雨が降り続いて十分な灌漑用水が確保でき、生産量の増加を支える良好な生育条件となった。また、結果する若い果樹も増加した。図7に、2014/15年度以降の南アフリカのグレープフルーツの生産量と収穫量を示す。

図7 南アフリカのグレープフルーツ生産量



出典：DALRRD(推計値/予測値は当事務所)

輸出

当事務所は、2023/24年度のグレープフルーツの輸出量は、生産者がクラス2の果実の出荷を自主的に減らした前年度から数量が回復するため、6%増加すると予測する。輸送コストは元に戻っており(まだコロナ禍前のレベルには達していない)、これが現在の水準かそれ以下で維持された場合、グレープフルーツの輸出量は23万トンに増加すると予想される。グレープフルーツは、品質の劣化を避けるため迅速に輸出市場に輸送する必要がある。南アフリカのグレープフルーツの大部分の輸出港であるダーバン港では、混雑と遅延が発生しており、果実の劣化が発生している。最近の報道によると、ダーバン港は約7万コンテナの滞貨で混雑している。港湾当局は、2023/24年度のグレープフルーツの輸出シーズンが始まる約1か月前の2024年2月までに、港が正常に戻ると予想している。業界団体は、果実が港を迅速に通過し劣化を防げるようにするため、港湾当局との調整を試みている。

2022/23年度の輸出量は、一部のグレープフルーツ産地がクラス2の果実の輸出用の梱包を減らし、国内

の加工と消費に回したため、8%減少したと推定される。2021/22年度のグレープフルーツの輸出量は前年比18%減少した。これは、梱包資材コストの高騰と輸送運賃の上昇により、一部の等級のグレープフルーツは輸出しても利益を得られないためであった。

2021/22年度の南アフリカのグレープフルーツ輸出の主要市場は中国で、輸出量の27%(6万3,470トン)を占め(表6参照)、オランダ(27%、6万3,408トン)、日本(10%、2万2,866トン)、ロシア(8%、1万9,429トン)がそれに続いた。これら4か国を合わせると、昨年の南アフリカのグレープフルーツ総輸出量の70%以上を占めた。米国向けのグレープフルーツ輸出量は、総量はまだ少ないものの過去10年間で指数関数的に増加し、2010/11年度の275トンから2021/22年度には6,184トンとなった。米国向けのグレープフルーツ輸出量は、輸出が軒並み減少した2021/22年度に30%減少したが、2022/23年度には成長が戻ったと推定される。北ケープ州産のスタールビー品種のグレープフルーツは、米国の夏の時期に米国向けに広く輸出される。

表6 南アフリカの生鮮グレープフルーツ輸出

輸出先国	2020/21 (トン)	2021/22 (トン)	増減率	2021/22		増減率
				1月～9月 (トン)	2022/23 (トン)	
中国	77,707	63,470	-18%	63,315	30,861	-51%
オランダ	73,231	63,408	-13%	62,515	72,523	16%
日本	30,029	22,866	-24%	22,865	17,311	-24%
ロシア	22,127	19,429	-12%	18,428	21,101	15%
英国	10,347	8,978	-13%	8,773	9,145	4%
大韓民国	4,547	7,427	63%	7,175	3,844	-46%
カナダ	8,351	7,168	-14%	6,880	6,758	-2%
香港	13,130	6,862	-48%	6,810	6,346	-7%
米国	8,827	6,184	-30%	6,161	8,990	46%
イタリア	11,118	4,854	-56%	4,705	7,157	52%
ポルトガル	5,475	4,472	-18%	4,472	5,375	20%
アラブ首長国連邦	4,795	3,831	-20%	3,275	4,961	51%
エスワティニ	2,135	3,372	58%	3,318	2,701	-19%
台湾	3,557	2,970	-17%	2,970	2,774	-7%
ドイツ	719	1,744	143%	1,703	1,127	-34%
ギリシャ	1,093	1,439	32%	1,439	1,539	7%
フランス	820	812	-1%	811	1,193	47%
アイルランド	673	656	-3%	610	672	10%
その他	11,926	7,811	-35%	7,235	9,573	32%
合計	290,607	237,753	-18%	233,460	213,951	-8%

出典: Trade Data Monitor LLC

表8 南アフリカのグレープフルーツの生産需給統計

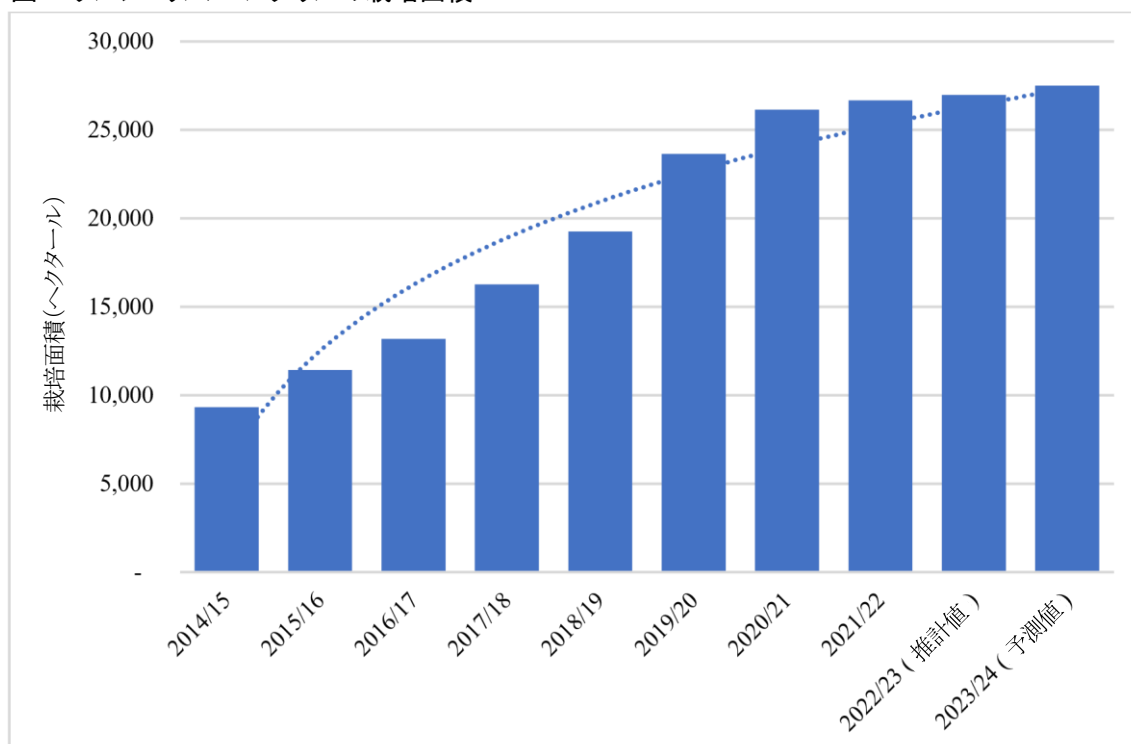
グレープフルーツ(生鮮)	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2022年1月		2023年1月		2024年1月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
販売年度の始まり						
南アフリカ						
栽培面積(ヘクタール)	8,377	8,377	8,477	8,477	0	8,450
収穫面積(ヘクタール)	8,100	8,100	8,307	8,307	0	8,350
結果樹本数(千本)	8,500	8,500	8,595	8,595	0	8,450
未結果樹本数(千本)	1,000	1,000	955	955	0	900
合計果樹本数(千本)	9,500	9,500	9,550	9,550	0	9,350
生産量(千トン)	416	416	420	420	0	400
輸入量(千トン)	5	5	2	8	0	5
総供給量(千トン)	421	421	422	428	0	405
輸出量(千トン)	238	238	220	218	0	230
生鮮国内消費量(千トン)	4	4	4	5	0	5
加工仕向量(千トン)	179	179	198	205	0	170
総仕向量(千トン)	421	421	422	428	0	405

<タンジェリン/マンダリン>

栽培面積

タンジェリン/マンダリン(ソフト柑橘類)の栽培面積の急速な拡大は鈍化してきている。種無しソフト柑橘類に対する世界的な需要の高まりと、他の柑橘類と比較して比較的高い利益率に牽引された農家の関心は、かなりの新植につながり、多くの生産者は市場が過飽和の状態にあるのではないかと懸念している(図8参照)。農業投入資材コストの増大、輸送運賃の上昇、インフラの非効率性、非効率な港湾運営及び道路網の老朽化により、ソフト柑橘類生産者の収益性が低下し、この業界への継続的な投資が抑制されている。当事務所は、2023/24年度のタンジェリン/マンダリンの栽培面積はわずかに2%増加すると予想する。このわずかな増加は、輸出市場におけるソフト柑橘類の需要が比較的高いことによる、グレープフルーツなど他の柑橘類からソフト柑橘類への転換を反映している。

図8 タンジェリン/マンダリンの栽培面積



出典: CGA(推計値/予測値は当事務所)

2022/23年度のタンジェリン/マンダリンの栽培面積は、苗木の販売価格の低下により1%増加した。2021/22年度のタンジェリン/マンダリンの栽培面積は前年比2%増となった。2021/22年度には、輸送コストが上昇し、クラス2のタンジェリン/マンダリンの輸出の収益性が低下し、面積拡大への投資がさらに抑制された。その結果、国内市場に出回るクラス2とクラス3の果実が多くなった。当事務所への情報提供者らによると、昨年のタンジェリン/マンダリンの収穫量のごく一部は、商業的機会が限られていたために販売されなかったことが確認されている。一部の生産物の販売先がないことから、生産者はこれ以上の拡大を躊躇した。現地視察の際、生産者らは、等級間の収益性の格差が大きいため、高収量よりも高品質の果実の生産に投資が集中していることを示した。病害虫をより適切に防除し、より良い水管理を可能にし、強風、降雹、日光などの天候要因による損傷から果実を保護するために、保護ネットの下での栽培面積が増えている。

主な栽培品種はナドルコットで、総面積の約19%を占める。それに続いて、アークシット9(ナドルコットLS)(14%)、タンゴ(13%)、ヌール(11%)、ノヴァ(10%)、リーンリ(8%)、オツリ(7%)が多い。西ケープ州はソフト柑橘類の生産量が圧倒的に多く総生産量の37%を占め、リンポボ州(28%)と東ケープ州(25%)がそれに続く。南アフリカのソフト柑橘類の栽培面積の40%以上は樹齢5年以下の果樹園であり、これは今後数年は市場に出回るソフト柑橘類の量が増えることを意味する。

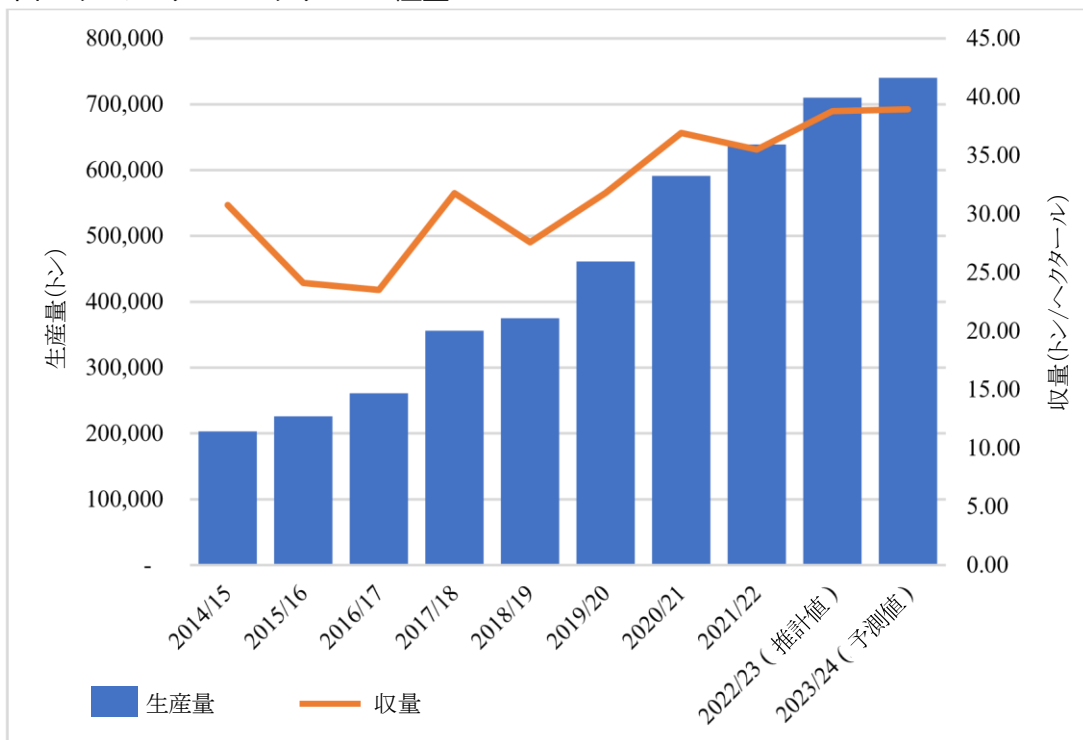
生産

当事務所は、若い果樹の結果が始まるため、2023/24年度のタンジェリン/マンダリンの生産量は4%増加すると予測する。さらに、タンジェリン/マンダリンの産地では、灌漑に必要な水を確保できるだけの通常ないしは大量の雨が降ったと報告されている。

2022/23年度のタンジェリン/マンダリンの生産量は、若い果樹の結果が始まること、十分な降水量が主要産地の灌漑に十分な水資源をもたらしたことから、11%急増したと推定される。西ケープ州では大雨と洪水に見舞われ、クレメンタインなどの晩生柑橘類の生産量が減少したが、洪水が発生した時には大部分の果実は収穫された後であった。

2021/22年度のタンジェリン/マンダリンの生産量は、栽培面積の拡大、好ましい気象条件、及び保護ネットの使用により、前年比8%増となった(図9参照)。

図9 タンジェリン/マンダリンの生産量



出典: DALRRD (推計値/予測値は当事務所)

輸出

当事務所は、南アフリカの2023/24年度のタンジェリン/マンダリン輸出量は、生産量の増加と品質改善への投資により、5%増加すると予測する。タンジェリン/マンダリンの大部分はケープタウン港から輸出される。現在、輸出市場への農産物の出荷に影響を与える操業上の制約に関する懸念が高まっており、2023/24年度の輸出にリスクが生じている。2022/23年度のタンジェリン/マンダリンの輸出量は、生産量の増加と、運賃の正常化により、15%増加したと推定される。南アフリカの2021/22年度のタンジェリン/マンダリン輸出量は、3%増の52万565トンであった(表9参照)。

南アフリカのソフト柑橘類の最大の海外市場はEUと英国で総輸出量の45%を占め、米国(10%)、ロシア(10%)、アラブ首長国連邦(8%)、中国(4%)がそれに続く。米国のアフリカ成長助長法(AGOA)の下、南アフリカ産ソフト柑橘類の米国向けの輸出は過去5年間で指数関数的に増加し、2017/18年度の1万3,695トンから2021/22年度には5万3,489トンに増加した。この成長傾向は、「皮を剥きやすい」品種に対する消費者の嗜好の高まりにより継続すると予想される。2023年9月までの輸出ペースに基づく、米国は2022/23年度も南アフリカ産タンジェリン/マンダリンの最大の輸出市場の1つとしての地位を維持すると予想される(表9参照)。

表9 南アフリカの生鮮タンジェリン/マンダリンの輸出量

輸出先国	2020/21 (トン)	2021/22 (トン)	増減率	2021/22	2022/23	増減率
				(トン)	1月～9月 (トン)	
オランダ	107,572	101,995	-5%	97,659	127,372	30%
英国	87,359	87,821	1%	83,036	90,879	9%
米国	43,665	53,489	22%	48,820	48,963	0%
ロシア	39,600	51,336	30%	49,547	49,837	1%
アラブ首長国連邦	39,997	39,962	0%	36,877	52,593	43%
中国	24,098	23,117	-4%	22,719	30,695	35%
カナダ	20,497	22,906	12%	21,176	26,938	27%
バングラデシュ	33,598	21,762	-35%	21,643	21,479	-1%
ポルトガル	9,651	10,853	12%	10,652	17,098	61%
マレーシア	6,748	10,744	59%	10,086	7,874	-22%
香港	6,866	9,475	38%	9,313	11,236	21%
サウジアラビア	9,357	9,437	1%	9,101	9,961	9%
アイルランド	7,797	8,288	6%	8,047	8,664	8%
イラク	10,112	6,137	-39%	6,137	6,140	0%
台湾	4,486	6,020	34%	6,020	1,681	-72%
インド	2,917	5,161	77%	5,004	8,687	74%
セネガル	5,189	4,997	-4%	4,800	5,906	23%
フランス	5,459	4,461	-18%	3,938	5,259	34%
その他	41,800	42,604	2%	39,103	59,514	52%
合計	506,768	520,565	3%	493,678	590,776	20%

出典: Trade Data Monitor LLC

表11 南アフリカのタンジェリン/マンダリンの生産需給統計

タンジェリン/マンダリン(生鮮)	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2022年2月		2023年2月		2024年2月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	26,677	26,677	26,977	26,977	0	27,500
収穫面積(ヘクタール)	18,000	18,000	20,000	18,500	0	19,000
結果樹本数(千本)	10,500	10,500	12,000	12,000	0	12,200
未結果樹本数(千本)	5,000	5,000	4,950	4,950	0	5,100
合計果樹本数(千本)	15,500	15,500	16,950	16,950	0	17,300
生産量(千トン)	639	639	680	710	0	740
輸入量(千トン)	3	3	3	3	0	3
総供給量(千トン)	642	642	683	713	0	743
輸出量(千トン)	521	521	560	600	0	630
生鮮国内消費量(千トン)	45	45	50	47	0	49
加工仕向量(千トン)	76	76	73	66	0	64
総仕向量(千トン)	642	642	683	713	0	743